

貞享騒動件で処刑された多田加助ら義民の処刑日に合わせ、11月18日(土)、19日(日)は貞享義民記念館を無料開館します。

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
田淵行男記念館 Tel.72-9964	野川かさね写真展講演会	11月26日(日) 15:00~16:00 1階展示室	要入館料 定40人(先着順) 11月18日(土)から電話で(立ち見の場合は申し込み不要)
安曇野高橋節郎 記念美術館 Tel.81-3030	北穂高芸術展	11月18日(土)~12月3日(日) 9:00~17:00 ホール	無料(常設展は要入館料)
	ライアーコンサート	12月2日(土) 14:00~15:00 展示室	要入館料 定40人(先着順・未就学児は不可) 11月21日(火)から電話で
貞享義民記念館 Tel.77-7550	安曇野から考える人権展	12月5日(火)~22日(金) 9:00~17:00 1階展示室	無料(常設展は要入館料)
穂高交流学習 センター Tel.81-3111	~MIRAI~グランドピアノ無料開放	令和6年1月20日(土)・1月21日(日) 10:00~18:50 多目的交流ホール	無料 定18組(1組50分間) 市内在住のピアノ経験者(その他の条件はHPで) 12月14日(木)から電話で(受付時間10:00~17:00) *初参加者は12月13日(水)から先行受付

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください

邂逅と対話の安曇野紀行
「常念岳と堀金小学校」

佐藤校長について忘れられないのは、月曜日ごとの朝礼であった。朝礼の校長訓話は、常念岳の話にかぎられていたといってもよかった。常念を見ろ、今朝はご機嫌がいいと見えて、あのとおり晴れている。一常念を見ろ、今朝はあいにく姿を見せてくれないが、よく勉強して明日の朝お目にかかろう。一常念を見ろ、今朝はもう雪をかぶっているが、ちっとも寒がってなんかいない、などなど。

(小説『安曇野』第3部 その十七より引用)

白井吉見が尋常高等小学校に在籍時、佐藤嘉市が赴任してきます。白井自身も朝礼の際に聞いた訓話のエピソードが、小説内で触られています。



小説『安曇野』の作者、白井吉見に大きな影響を与えた人物の一人です。小説内では第3部に佐藤藤山の名前で登場。「常念校長」として知られる佐藤の人となりについて詳細に描かれています。佐藤は1877(明治10)年に現在の飯山市に生まれ、県内で教員になります。埴科郡で学校教育の指導・助言を行う「視学官」だった際、聖山から常念岳を望み、その美しさに惹かれました。1916(大正5)年、常念岳

の麓の堀金尋常高等小学校(現・堀金小学校)に校長として着任。39歳の時でした。朝礼では「常念を見よ」と子どもたちに呼び掛け、その美しさを讀えたことから「常念校長」と呼ばれるようになりました。同校での在職期間は2年4カ月余でしたが、その間に常念岳調査のために登山を実施。住民の協力を得ながら、前常念岳への石室の建設と三股から前常念岳までの登山道の開拓を果たしました。その後、故郷に戻って校長を務め、郷土の振興に尽力しました。

第8回
小説『安曇野』の登場人物を知ろう!



佐藤 嘉市

ギャラリートーク

12月26日(火)
15:00~16:00

地階展示室

無料



田淵行男記念館
YUKIO TABUCHI MEMORIAL MUSEUM

12月26日(火)

4月21日(日)

開館時間 9:00~17:00
休館日 月曜日(祝日は開館)
入場料 高校生以上310円
電話 72-9964

佐藤大史写真展
ALASKA
「生きる」と暮らすこと
市内在住写真家・佐藤大史さんが、アラスカで撮影した中から選りすぐりの作品を展示します。

とっておきの話で心温まる 豊科郷土博物館 こたつ講座

10:30~11:30 学習室 各回30人(先着順) 要入館料
各回開催日10日前の9:00から電話で(第3回は8日前から) 豊科郷土博物館 Tel.72-5672

回・日にち	内容	講師	回・日にち	内容	講師
①12/9(土)	信州の植物学の系譜 ~『らんまん』の時代の人々~	松田貴子 (学芸員)	⑤2/3(土)	空家今昔物語 ~空家の問題を紐解く~	幅拓哉 (市職員)
②12/16(土)	イエジマイ・ハカジマイ	倉石あつ子 (学芸員)	⑥2/10(土)	「ハイトリック」ってなあに? えっ、自動糞掘り!?	窪田尚幸 (学芸員)
③1/13(土)	「叛逆」の武将? 仁科道外 ~戦国大名武田氏の安曇郡侵攻を軸として~	逸見大悟 (市職員)	⑦2/17(土)	絵地図から満願寺、 そして牧村の謎に迫る	原明芳 (博物館長)
④1/20(土)	「食べる」から見る 家族のかたち	宮本尚子 (学芸員)			

コラム 市誌編さんだより 第17回
安曇野の原始古代の謎に迫る
市誌編さん専門調査会
考古部会 専門調査員 土屋 和章

皆さんは市内にどれくらい数の遺跡があるかご存じですか。実は、今のところ398カ所の遺跡があることが知られています。遺跡とは、人類の生活の痕跡が地中や地表などに残っている場所のことです。集落や城、寺院・神社などの跡や、いろいろな時代のお墓、水田や畑の跡も遺跡と呼ばれます。これらの場所や施設は、現代の私たちの身の回りにもあるものばかりです。では、安曇野市の遺跡は、どれくらい深いところに眠っているのでしょうか。深いものでは、長野自動車道建設時に地下3メートルから見つかった、北村遺跡(明科光)の縄文時代の墓と300体もの人骨が有名です。反対に、浅いものは地表に表れており、今から約1400年前に造られた穂高古墳群(穂高有明・穂高牧・穂高柏原・穂高)や潮古墳群(明科東川手)、光城跡や塔の原城跡などの中世の山城があります。安曇野市誌では、まず考古資料編でこれまでに見つかっている遺跡の内容を分かりやすく紹介します。その後、原始・古代編で、安曇野の成り立ちを歴史として組み立てていきます。その進み具合をこのコラムで紹介していきますのでお楽しみに。



穂高古墳群 B1号墳。古墳のように地表面に姿を現している遺跡もある。